

令和6年度 正智深谷高等学校自己評価シート

目指す学校像	建学の精神「優しく勇気があり、強い人間として生き、すべての人間の救われる道を説いた法然上人の教えの上に立つ」 との本校建学の精神ならびに校訓「選択・専修」を踏まえ、 1 自己肯定感を育むとともに、自分で考え決断し行動できる人間・他者を認めることができる人間を育てる。 2 問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。 3 夢（ビジョン）を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。
---------------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

第三者評価委員会	
（学校評議員 3名）	開催予定日
	令和7年2月1日

重点目標	1 進路指導を充実させ、進学実績を向上させる 2 入学者の定員確保に向けた募集・広報体制の充実 3 浄土宗門関係学校としての教育推進 4 教育活動におけるICTの活用と実践
-------------	---

学校関係者評価委員会		
学校評議員	3名	開催日
学校関係者評価委員	6名	令和7年2月1日
自己評価委員(教職員)	13名	

領域	学校自己評価					第三者及び学校関係者評価		
	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	委員からの意見・要望・評価等
1	・埼玉県北部の私立高校として本校は進学校をめざしてきたが、その評価が確立されていないのが現状である。特別進学系では一般選抜対策を充実させ、国公立大学や難関私立大学への合格者数増加をめざし、進学校としての評価を確立させる。総合進学系では進路ガイダンス・推薦入試対策指導を積極的に行い、多様な進路ニーズに対応しながら、大学進学率の向上をめざす。	・進路状況が進学校をめざす上でふさわしい状況か。	・進路ガイダンスを行い、進路研究に取り組む環境づくりを行う。 ・大学の教員を招き模擬講義を実施し、進学意欲や学びの意欲を向上させる。 ・受験学習の方法を具体的に知ることができる説明会を実施、進学資料集を発刊する。	・大学進学率の状況。国公立大学の合格者数。難関私立大学の合格者数。 ・一般選抜受験者数、大学入学共通テスト受験者数の状況。 ・進路行事の実施状況の検証。	・令和7年3月に卒業した生徒の大学進学率は82.1%で過去最高の進学率となったが、国公立大学の合格者数は15名で昨年度の20名より減少した。難関私立大学については慶應義塾大学や上智大学の現役合格者を出すができたが、難関私大合格者の総数は減少した。 ・Hコースを中心に一般選抜受験者が増加したが、国公立大学受験にチャレンジする生徒の数は減少した。大学入学共通テスト受験者数は36名。 ・進路行事については年間指導計画をもとに予定通り実施することができた。	B	・特別進学系の進学実績向上のために新たに特進部を設置し、放課後学習指導に対する取り組みを充実させる。進学合宿を1年生の早期のうちに実施し、学習習慣を定着させ、より効果的な学習方法を身につけさせる。	・新たな取り組みをしており、地域に評価される進学校になっていると感じた。
		・進路指導を中心として多様なニーズに応えた取り組みがなされているか。	・指定校数の増加のために進路指導教員を中心に積極的に大学と交渉する。 ・医療系進学者のための講習・講演会を行う。	・大学指定校数の状況と新規指定校大学数。 ・医療系講習の実施や分野別進路指導の実施状況。 ・学校評価アンケートの進路指導に関する回答状況。	・北里大学など医療系を中心に複数の大学で新規の指定校を増枠することができ、生徒の進路選択の幅が広がった。 ・医療系分野の進学者が増加した。理工系・文系分野の学部別志望理由書・小論文個別指導も効果的に実施ができた。 ・学校評価アンケートの生徒の進路指導に関する質問項目では昨年度よりさらに高い肯定的評価を得た。		・医療系合格者は58名でほぼ前年並みの人数であった。志望理由書や小論文指導だけでなく、生物や化学などの教科受験対策も強化していきたい。 ・指定校のさらなる増枠のために進学先大学との連携を強化していきたい。	・社会人になった時のことを想定し、働くことの意義や職業観の育成にも力を入れていると感じた。
		・進学校をめざす上での教科指導が適切になされているか。	・各教科における組織的な指導計画の構築、シラバスの作成。 ・適切な学習課題や家庭学習習慣の定着に向けた指導の実践。	・各定期試験実施後の点数分布の状況と教科会議での現状分析。 ・カリキュラム・シラバスの再点検。 ・学校評価アンケートの学習指導に関する回答状況。	・教務を中心に定期試験の平均点・点数分布の検証を行い、各教科での議論につなげることができた。 ・シラバスを作成し、教科ごとに学習進度の調整や確認を行うことができた。医療系受験用に理科を重点的に学ぶコースを設定し、多様な進路指導に対応したカリキュラムを構築した。 ・学校評価アンケートの学習指導に関する質問項目のうち家庭学習習慣における数値が改善されていない。		・家庭学習習慣をいかに身につけさせられるかが課題である。適切な宿題を課すのはもちろん、スタディサプリやClassiの映像授業を家庭学習に活用するよう促したい。	・教科指導においても興味を持たせて、伸ばしていくという意識を持って取り組んでいる先生が多い。
2	・少子化・人口減少の中においても安定した生徒募集による定員確保をめざすために募集・広報体制を充実させる。	・本校の特色ある取り組みや強みをアピールし単願受験者数を増やすことができたか。	・インターネットやSNSを活用した広報活動を行う。 ・各種イベント（募集活動）を充実させる。 ・丁寧な個別相談を心がける。	・ホームページの閲覧件数。 ・各種募集イベントや個別相談への申込件数。 ・入学試験の受験者数。 ・入学者数（手続者数）。	・ホームページの閲覧数は増加した。 ・各種イベントへの申込数は微減。個別相談数は約10%減少した。 ・入学者数は367名、単願の受験者数は294名で前年度より増加、併願の受験者数は895名で前年度より減少した。	B	・授業料無償化によって、より私立高校の差別化が求められる状況である。特進部創設・医療系実績・特待制度など新たな取り組みで本校の魅力をアピールする必要がある。 ・募集活動を早期化し、本校への受験を早めに意識させたい。	・地域イベントや音楽祭、ボランティアなどの参加を今後も継続してほしい。地域貢献をしている高校だと思うので、そうした積み重ねが地域への広報につながると思う。
3	・浄土宗の宗立宗門関係学校として、建学の理念である法然上人の教えを学び、校訓である「選択(せんちゃく)」「専修(せんじゅ)」の実践に結びつける。 ・日本の伝統文化や寛容の精神、忠恕の心などを大切にできる生徒の育成に努める。	・茶華道の授業を通して仏教精神を学び、日本の伝統文化への理解を深めることができたか。 ・宗教の役割、意義に関する学びを宗教行事を通じて実践することができたか。	・建学の精神や校訓「選択・専修」に基づく人間形成を日々の教育活動を通じて身につけさせる。 ・仏教精神や日本の文化について、宗教教育を通じて学び、基本的な知識を身につけさせる。	・建学の精神の具現化に向けた取り組みができたか。 ・宗教行事や茶華道の授業を通じて日本文化における宗教の意義や「尊ぶべきもの・守るべきもの」について学ぶことができたか。 ・人間として尊厳を持って生きることの大切さを学ぶことができたか。 ・学校評価アンケートの宗教教育に関する回答状況。	・宗教行事で実施した写経や茶華道の授業を通じて仏教精神の学びを深めることができた。 ・宗教教育が生徒指導のみならず、広く生徒の人間形成に意義ある役割を果たした。 ・学校評価アンケートにおいて生徒・保護者ともに肯定的な回答数の方が多かった。	A	・情操教育を効果的に実践し建学の精神の具現化を達成するよう努めていきたい。	・あいさつができ、明るくハキハキしている生徒が多い。宗教の授業を通じて心が豊かに育っていると感じる。
4	・本校では学習活動においてICTを用いて、情報を整理・比較し、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したりする取り組みをすでに行っているが、教科指導においても日常的にICTを活用した授業を行い、生徒の学習効率を高めることが課題である。	・情報端末やICT機材を用いて、画像、音声、動画などを提示し、視覚的に分かりやすい授業を行い、学習課題への理解を深めることができたか。 ・情報端末やICT機材を活用して課題の配信、提出を日常的に行うことができたか。	・ICTを活用した教科課題を作成し、授業内での配信、課外学習としての配信を行う。 ・通常の板書だけでなくプロジェクターを用いて視覚的な理解を促す授業を展開する。 ・学習効果の高い解説動画を活用する。	・クラッシャー、ロイロノート、スタディサプリの活用状況を検証する。 ・教科会議などでICTを活用した教科指導の取り組みを検証する。	・日常の授業はもちろんのこと修学旅行の事前指導、深谷アンバサダーにおける発表資料など、あるゆる場面でタブレットを用いた教育活動がなされた。スタディサプリの映像授業やウェブテスト、ロイロノートによる課題配信など学習指導や進路指導など多岐にわたる活用がなされた。 ・多くの授業でプロジェクターを用いたり、ロイロノートで課題配信をしたりするなど、ICTを用いた教育活動が当たり前の状況になっている。	A	・視聴覚機材の最新機器の購入やさらなる通信環境の整備を行いたい。 ・全クラス電子黒板設置に向けての準備をしていきたい。	・ICTを用いた教育には先進的な取り組みをしていると感じる。リテラシー教育やSNSに対する指導もあわせて行っていることにも好感が持てる。